

大学名	お茶の水女子大学		
University			
外国人研究者	劉 娜		
Foreign Researcher			
受入研究者	佐々木 泰子	職名	教授
Research Advisor		Position	
受入学部/研究科	人間文化創成科学研究科		
Faculty/Department			

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	中国
Nationality	
所属機関	大連外国語大学
Affiliation	
現在の職名	准教授
Position	
研究期間	2015年7月11日～2015年10月8日
Period of Stay	
専攻分野	日本語教育
Major Field	



ゼミの研究仲間と一緒に論文を検討している

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

<b>①研究課題 / Theme of Research</b>
中国の日本語作文教育において学習者の「考える力」が育成しにくい現状の改善に向け、協働学習及び内容重視アプローチを取り入れた作文授業を実践した。このような実践を通して、学習者の思考力が育成されるのか、また学習者の思考力の育成にどのような要素が必要なのかを研究課題とする。
<b>②研究概要 / Outline of Research</b>
中国の大学3年生の日本語学習者を対象に、教師主導のもと文法規則や語彙の難易度を上げていく従来の作文授業ではなく、現代社会を生きていく上で必要なテーマについて（＝内容重視アプローチ）、学習者が仲間と議論しながら作文を完成させていく（＝協働学習）という実践を実施した。日本における短期研究では、実践で得られたデータ（学習者の作文、フォローアップインタビューなど）を理論で裏付け、質的・量的に分析し、博士論文を執筆した。とりわけ、データの質的・量的の分析方法について、指導教官及び研究仲間のアドバイスにより、博士論文における理論的背景及び分析方法の明確化、精緻化することが可能になった。
<b>③研究成果 / Results of Research</b>
日本における90日間の短期研究を通して、主に以下の3つの成果が得られた。①博士論文の構成の精緻化。中国における日本語作文教育において、学習者の「考える力」を育成するために、協働学習を取り入れることと内容重視の日本語教育を実践するという2つの視点から研究を再構成し、博士論文の精緻化を果たした。②博士論文の分析方法の改善。博士論文では質的分析方法としてKJ法が使われていたが、データの特徴からM-GTAとう方法がより適切ではないかというアドバイスを質的研究法の専門家からいただいたため、論文の分析方法の改善ができた。③『日本語教育』169号に投稿した。8月末に、段階的な研究成果として、協働作文に対する意識を分析し考察した論文を日本語教育学会の学会誌『日本語教育』169号に投稿した。
<b>④今後の計画 / Further Research Plan</b>
今後の計画として、まず、受け入れ研究者である佐々木泰子先生の指導の下で、現在取り組んでいる博士論文の精緻化を努めていく。また、日本における短期研究で得られた研究成果を中国の日本語教育現場の教員に広く知ってもらうために、2015年10月末に中国の大連外国語大学にて行われる「中日韓日本研究フォーラム」で発表することを予定している。さらに、今後は中国の大学3年生だけでなく、日本語の初中級学習者である1年生や2年生を対象とする作文授業をデザインし実践することを通して、初中級日本語学習者を対象とする内容重視の日本語作文授業のあり方を探りたい。

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

①研究課題 / Theme of Research

思考力の育成を目標とする日本語作文教育の提案—JFL環境の中国人学習者を対象に—

②研究概要 / Outline of Research

劉娜さんは、中国の日本語作文教育において学習者の「考える力」が育成しにくい現状の改善に向け、協働学習及び内容重視アプローチを取り入れた作文授業を実践した。教師主導のもと文法規則や語彙の難易度を上げていく従来の作文授業ではなく、現代社会を生き抜く上で必要なテーマについて（＝内容重視アプローチ）、学習者が仲間と交流することを通して思考力を育成する（＝協働学習）という授業である。そこで得られたデータをもとに実践を理論で裏付け、博士論文を執筆した。申請者の博士論文は従来の中国の日本語作文教育の学習環境を見直し、現場の教師に向けて思考力育成のためにはどのような実践が有効なのかを具体的に提案することになる。今回の短期研究で日本の専門家や研究者らとの交流の場を提供し、博士論文における理論的背景、分析方法の明確化及び記述方法に関する指導を行った。

③研究成果 / Results of Research

研究期間中に博士論文及び学会誌『日本語教育』への投稿論文の執筆に関する指導を行った。博士論文に関しては、主に中国の日本語学習者の「考える力」を作文のクラスで育成することの可能性及びその必要性を論じるための理論的背景の確立、博士論文執筆の核心となる部分についてゼミ生との議論などを通して深めることができた。また協働作文に対する中国人学習者の意識を因子分析によって分析し考察した研究論文の『日本語教育』169号への投稿を指導した。

④今後の計画 / Further Research Plan

劉娜さんの今回の短期研究の主な目的は博士論文の執筆となるが、理論的背景の確立や分析方法の改善などは短期研究を通して実現できた。その結果、博士論文の初稿が完成したが、論文全体の見直しや、多様な角度から研究結果について考察していく必要があり、今後は定期的にEメールによる相談や来日による面談指導を行っていく予定である。さらに、今回の研究を通して中国の日本語作文教育に対してどのような示唆が得られるのか、その可能性を中上級日本語学習者にとどまらず、初中級学習者などへの応用の可能性についての研究もすすめていく必要があり、それに関する指導も行っていきたい。